

## 取扱いの趣旨

腎・尿路系疾患の診断や治療効果の判定などに用いられる検査のため、傷病名に対する尿沈渣（鏡検法）及び尿沈渣（フローサイトメトリー法）は、原則として認められない。

## 支払基金が公表している取扱いの全文

【検査】

《令和6年6月28日》

204 尿沈渣（鏡検法）及び尿沈渣（フローサイトメトリー法）の算定について

### ○ 取扱い

- ① 次の傷病名に対するD002 尿沈渣（鏡検法）及びD002-2 尿沈渣（フローサイトメトリー法）の算定は、原則として認められる。
  - (1) 糖尿病性腎症
  - (2) 溶連菌感染症
- ② 次の傷病名に対するD002 尿沈渣（鏡検法）及びD002-2 尿沈渣（フローサイトメトリー法）の算定は、原則として認められない。
  - (1) 高脂血症
  - (2) 脳血管障害
  - (3) 腎臓疾患・尿路系疾患以外（再診時）

### ○ 取扱いを作成した根拠等

尿沈渣は、尿を遠心分離器にかけ、赤血球、白血球、上皮細胞、円柱、細菌等を調べる検査であり、腎・尿路系疾患の診断や治療効果の判定などに用いられる検査である。

糖尿病性腎症では、腎病変の進行に伴い出現する空胞変性円柱やその他の円柱が出現することが知られている。また、溶連菌感染症では溶連菌感染後糸球体腎炎合併の有無等を調べる上で当該検査が有用である。

以上のことから、糖尿病性腎症、溶連菌感染症に対する当該検査の算定は、原則として認められると判断した。

なお、高脂血症、脳血管障害、腎臓疾患・尿路系疾患以外（再診時）に対する当該検査の有用性は乏しく、これらに対する算定は原則として認められないと判断した。

## グラフの見方

### 1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

尿沈渣（鏡検法）又は尿沈渣（フローサイトメトリー法）を算定している目視対象レセプト1万件当たり、条件（高脂血症、脳血管障害 又は腎臓疾患・尿路系疾患以外（再診時））に対し算定）に該当するレセプト件数

### 2 折れ線グラフ

該当レセプトのうち、尿沈渣（鏡検法）又は尿沈渣（フローサイトメトリー法）が査定・返戻となった割合

#### 【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員等	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

## 審査結果の概要

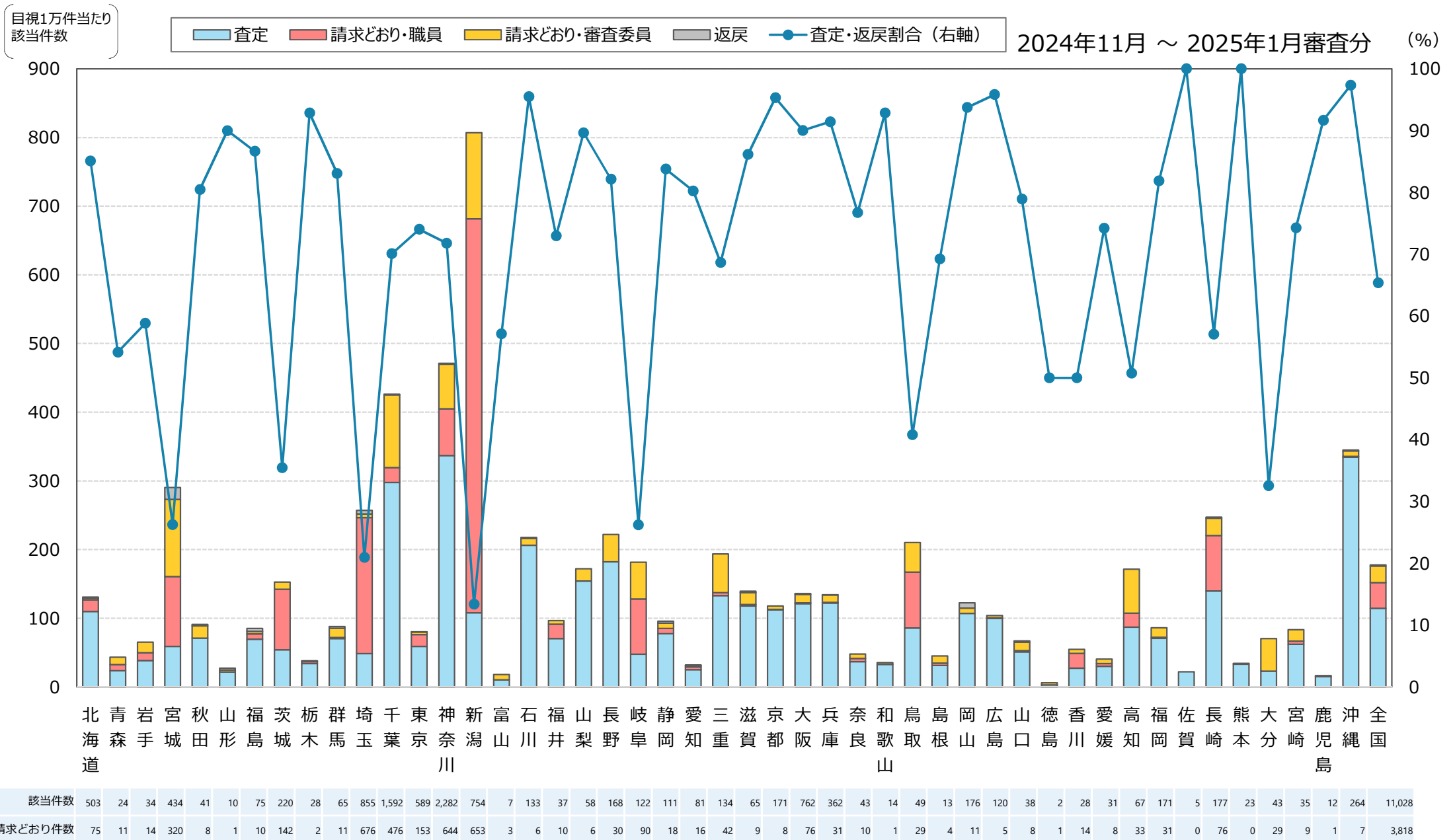
➤ 全国の査定・返戻割合 65.38%

➤ 検証対象都道府県 37

検証観点	都道府県※	備考
査定・返戻割合が低い	新潟、埼玉、岐阜、宮城、大分、茨城、鳥取、徳島、香川、高知、青森、長崎、富山、岩手、三重、島根	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	新潟、埼玉、宮城、茨城、鳥取、長崎、岐阜、神奈川、香川、千葉、福井、高知、東京、北海道、岩手、青森	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	新潟、宮城、千葉、神奈川、高知、三重、岐阜、大分、鳥取、長野、長崎、山梨、秋田、滋賀、宮崎、岩手	//

※検証対象都道府県が16を超えたため、16都道府県を限度に表記している

該当件数（全国）	【条件】	11,028件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	7,210件
検証を必要とする審査	請求どおり	3,818件



【該当件数】高脂血症、脳血管障害 又は腎臓疾患・尿路系疾患以外（再診時）に対し尿沈渣（鏡検法）又は尿沈渣（フローサイトメトリー法）を算定しているレセプト件数